



## 宮崎県JICA派遣専門家連絡会

### CONTENTS

JICA教育協力プロジェクトの偉業に思う  
— JKUATババロア基金感謝の会に集う —

永田雅輝

2012年「口蹄疫防疫対策上級専門家育成」  
研修コースの実施概要について

三澤尚明

宮崎から世界へ！GLOBALINK  
— 世界とつながっている私達2013 —

崎田佳予子



## JICA教育協力プロジェクトの偉業に思う

— JKUATババロア基金感謝の会 —

宮崎県JICA派遣専門家連絡会  
会長 永田雅輝

宮崎県JICA派遣専門家連絡会の皆様には、ご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。

ところで、私とJICAとの関わりの原点は、3年前の本会報第12号（2000年2月）で記述しましたように、アフリカ・ケニア共和国における日本のODA支援国家プロジェクトによる大学づくり、すなわちジョモケニヤッタ農工大学プロジェクト（当初の大学名はJKCAT、その後JKUATに変更）にJICA派遣専門家として1986年と1990年の2度参加したことに始まります。このプロジェクトは、当時のケニアにとっては技術系高等教育機関の基盤大学として期待が大きく、JICAにとっても他の模範となるプロジェクトとして高い評価を受けました。本プロジェクトは1980年から2000年までの約20年間の長きに渡り継続されました。このすばらしい大学づくりのプロジェクトについて、先の第12号では不滅のプロジェクトとして記述したのですが、その理由はJICAによる支援が終了した後の支援を、プロジェクトに携わった関係者（専門家、協力隊、JICA職員他）の絆に

よって側面的な支援体制が作られ、今度は大学で学ぶ学生を支えようと奨学金中心の活動が日本ババロア会（基金者約200名）の名称で始まったのです。第12号において、「JKUATプロジェクトは不滅なり」と書かせてもらったのはこのことでした。

ところが今年の1月に、この日本ババロア会が発足して15年が経過し、JKUAT自身が日本ババロア会の精神を引き継いで学生への奨学金制度が独自に大学内でも立ち上がったことを受けて、日本ババロア会の活動をケニア側に譲って大学側で管理実施してもらうことが適切であるとの日本側の判断が下され、JKUATプロジェクトがさらなる不滅の道程と辿ることになり、その感謝の会が東京で開催されたのでした。このつどいには、そのプロジェクトのスタートアップから完了まで、さらに日本ババロア会基金の制度化から運営までのリーダーとしてお二人の先生（中川博次京都大学名誉教授、岩佐順吉岡山大学名誉教授）への感謝を兼ねたものでもありました。お二人の先生はとも7-80歳代とは思えないほ

どにお元気であり、こちらにも不滅と思われるご健在振りでした。当日は、当時のケニアで仕事をした仲間との25～30年ぶりの再開となる方もあって、お互いに当時の苦楽を語り合い、時間が過ぎるのも忘れるほど感動したつどいとなりました。

このJKUATプロジェクトには約300名の関係者（専門家、協力隊、JICA職員他）が派遣されましたが、この人々の汗と涙の結晶がこれからも永遠にケニアの大学での人づくりに活かされていくことを強く感じました。その結晶は、今回の集いで現地の大学の発展ぶりが報告されましたが、1980年の開設時は学生数800人であったのが2011年には22,500人とのことで、想像以上の大学となって発展していることに嬉しく感じた次第です。本当にJICAプロジェクトに参加できたことに感謝しているところであります。

話題が代りますが、本連絡会が現在のように活動ができるようになったのは、宮崎大学をはじめ宮崎県、JICA九州、JICAみやざき応援団（宮崎県海外

協力協会、宮崎県青年海外協力隊を支援する会、宮崎県JICA派遣専門家連絡会）等の各種機関・団体との連携体制が密に取れるようになったことです。特に、本連絡会会員が多い宮崎大学においては、JICAとの関係が深まり、国際交流活動がプロジェクトとして立ち上がるまでになりましたのも、宮崎大学客員教授末森満様（JICA本部）のご尽力によるものであります。同氏には本連絡会に対してもご指導・ご協力を頂いているところで深く感謝申し上げます。

さて、拙者は、本連絡会長職を初代会長玉井理宮崎大学名誉教授（平成6年度～15年度）から引き継いで9年目（平成16年度～24年度）となりますことから、このあたりで同職を3代目へ引き継がせて頂きたいと考えております。このことによって、本会が益々発展することを願うものであります。

今後とも関係各位には引き続き、ご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 2012年「口蹄疫防疫対策上級専門家育成」研修コースの実施概要について

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター  
教授・副センター長 三澤尚明

### 【研修を企画した背景と目的】

我が国の家畜生産の拠点とも言える南九州に立地している宮崎大学は、宮崎県での口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生で得られた貴重な教訓を最大限に活かすため、平成23年10月1日に学内共同研究施設として産業動物防疫リサーチセンター（Center for Animal Disease Control; CADIC）を開設しました。CADICの組織は防疫戦略部門、感染症研究・検査部門、国際連携・教育部門および畜産研究・支援部門の4部門から成り、3名の専任教員に加え、農学部、医学部、工学部および教育文化学部の併任教員および学外の客員研究員で構成され、宮崎県畜産・口蹄疫復興対策局を始めとする、国内外の関係諸機関と密接に連携・協力して、世界

に通用する産業動物防疫に関する教育・研究拠点を構築しようとするものです。

グローバル化による人と物の流通は、海外悪性伝染病の侵入の機会を増やし、防疫への対応を複雑化させてきたと同時に、水際防疫の限界が懸念されています。そのため防疫体制は水際防疫に加え、更に進んだ危機管理、気象学や交通学を考慮した感染拡大を予想するシミュレーション法、感染拡大に対するリスク評価を網羅した、より高度な実践的研究やアジア各国の家畜伝染病常在国との国際防疫ネットワークの構築が求められています。このような背景から、口蹄疫等の越境性海外悪性伝染病が発生した場合に、①感染ルートの解明や 拡大予想を行う疫学解析、および防疫措置や再発防止を講じ

ることのできる危機管理能力を持つ人材、②殺処分した家畜の埋却に伴う環境汚染対策を行える人材、③発生後の畜産基盤の安定化施策において実践力を持つ人材を養成する途上国支援のための「口蹄疫防疫対策上級専門家育成」研修コースを企画・実施しました。

#### 【研修対象の選定】

対象国は事前に参加意思を表した国で、各国で家畜伝染病防疫対策に関する教育・研究・感染症対策の政策立案実践について3年以上の経験があり、英語での研修受講が可能な者（職位としては大学教員、国公立研究所の研究者、政府行政機関の技官）を研修対象者としました。その結果、カンボジア、タイ、ミャンマー、ウルグアイ、ベトナムから家畜防疫に関係する行政機関および大学に所属する8名（獣医師の有資格者）が参加しました。

#### 【研修運営体制】

CADICの三澤副センター長（専任教員）をコースリーダー、農学部獣医学科の野中准教授（兼任教員）をサブコースリーダーとし、事務手続きは田上事務員（CADIC）が行いました。研修員の研修中の様々なケアを内野研修監理員が行い、JICA九州国際センター・研修業務課（長野氏）との連絡を緊密に行いながら研修の運営にあたりました。また必要に応じて、宮崎大学国際連携センター・吉成准教授のサポートを得ました。講師陣は宮崎大学のCADIC、農学部獣医学科、農学部畜産草地科学科、住吉地区フィールド科学教育研究センターおよびフロンティア科学実験総合センターに所属する教員並びにカンザス州立大学獣医学部教員、元米国農務省

研究者および宮崎県の関係機関（畜産・口蹄疫復興対策局、畜産課、高崎食肉衛生検査所、宮崎家畜保健衛生所、川南町役場、西都リサイクル協同組合）に依頼しました。アクションプランの作成方法等については、JICAの多田専門員に来ていただいてアドバイスを仰ぎました。

#### 【研修プログラム】

研修生は2012年9月3日に来日し、9月4日から7日まで、JICA九州国際センターにて日本滞在中に必要な情報の習得を目的としたオリエンテーション（政治、行政機関、経済、教育など）、日本語講座、国際交流プログラムを受講しました。その後宮崎へ移動し、9月10日から10月5日まで、宮崎大学において研修を実施しました。

研修を始めるにあたり、オープニングセレモニーでは、菅沼学長および村岡JICA九州国際センター所長より、国際防疫の重要性と本研修を実施する意義についてご挨拶をいただきました。続いて研修生には、自国の口蹄疫の現状と直面している課題に関するレポートを発表していただきました。研修プログラムは、①防疫に関する基礎および高度な知識の習得、②口蹄疫を含む家畜感染症に関する基礎および高度な知識の習得、③家畜育種および獣医療に関する高度な知識及び技術の習得、④牧草の自給生産と畜産経営に関する基礎及び高度な知識と技術の習得、⑤宮崎県内の畜産関連施設や口蹄疫発生現場・家畜埋却地等の実地見学、の5つの単元で構成しました。加えて、宮崎県知事への表敬訪問、研修期間中に開催された第2回国際シンポジウム（国境なき家畜伝染病防疫対策の取り組み）において、研修参加



オープニングセレモニー

国における家畜伝染病の問題と防疫対策について発表していただきました。さらに、文化交流として、宮崎県串間市の都井岬の野生馬（御崎馬）の馬追を獣医学科一年生と見学・体験しました。

### 【成果と課題】

防疫・復興システムの理解を促す産官学連携によるカリキュラム構成は、口蹄疫を経験した宮崎にしかできないユニークなものであったと自負しています。特に、口蹄疫発生時の宮崎県の行政対応と復興・再生に向けた取り組みについて行政担当者から直接話を聞いたり、口蹄疫の簡易・迅速診断法等を含む防疫に関する高度な知識と技術を習得できたことは有意義なものであったと思います。また、多くのマスメディアが本研修の取材に訪れ、国際防疫の取り組みに対する関心の高さがうかがえました。

研修最終日に自国におけるアクションプラン（AP）を発表しましたが、研修生のAPの多くには、本研修コースで習得した知識や技術の普及活動が含まれており、口蹄疫等の越境性海外悪性伝染病対策のリーダーとして活動する意欲が感じられました。しかしながら、

案件目標の達成は一朝一夕に行えるものではなく、研修生が本研修コースをきっかけに各国のリーダー的存在として活躍することを期待しています。

今後の課題として、参加各国の畜産・獣医療の現状を我々講師陣が十分把握しておらず、参加国の視察を兼ねたフォローアップ訪問とそれに基づくカリキュラムのブラッシュアップが必要と考えています。

### 【おわりに】

宮崎大学では、日本でも有数の畜産県に立地しているという特色を踏まえ、口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザなどの海外悪性伝染病の防疫に直接携わった経験を生かし、畜産フィールドを活用した実践教育を展開しています。今後も引き続き海外悪性伝染病の我が国への侵入リスクを考慮して、研修参加国との密接な情報交換や共同研究等を行い、防疫モデルを共有した協同教育システムの構築を行える人材を養成して参りたいと考えています。

末筆ながら、今回の研修を実施するに当たり多大なご協力を賜った宮崎県の関係機関並びにJICAの関係各位に深謝いたします。



LAMP法による口蹄疫の迅速診断法の実習



修了証授与



県知事表敬訪問



## 宮崎から世界へ！GLOBALINK

—世界とつながっている私達2013—

JICA宮崎デスク・国際協力推進員

崎 田 佳予子

2013年1月27日（日）イオンモール宮崎にて、宮崎県内で活躍する国際協力&国際交流団体との合同イベントが無事終了致しました。

昨年に引き続き、JICA九州では、宮崎県JICA派遣専門家連絡会、宮崎県青年海外協力隊を支援する会、宮崎県海外協力協会、NPO/NGOの4団体(通称：宮崎国際協力ネットワークICNM)とともに、国際協力に関するイベントを実施しています。

今回は、(公財)宮崎県国際交流協会が毎年実施している「アートフェスティバル～外国人が見た宮崎作品展～」と「在住外国人による日本語スピーチコンテスト」を合同開催し、さらに、宮崎大学IRISH(インド：砒素汚染対策)も加わり大規模なイベントとなりました。今回は、高校生ボランティアと大学生ボランティア約80名が参加し、各設置ブースをそれぞれ担当しました。

イベント内容は、各団体の活動紹介パネル写真展示、世界をつなぐ写真展@アフリカ、地雷撤去作業体験、クリーンな水の作り方体験、世界のクイズ、民族衣装の試着体験、ステージイベント、「外国人

がみた宮崎」の作品の展示、などが行われました。

ステージイベント「宮崎発！世界で活躍するプロフェッショナルに聞いてみよう！」では、世界の様々な地域で活躍するJICA関係者、宮崎県JICA派遣専門家連絡会より佐伯雄一教授、NGO団体、宮崎大学IRISHをお招きし、「なんとかしなきゃプロジェクト」著名人メンバーである木村つづくさんとジェイミーさんが、世界各地のとびっきりの魅力を交えながらのトークショーを発信しました。

また、「第5回アフリカ開発会議(TICADV)」が6月に横浜市にて実施されるのに合わせ、JICAボランティアのタンザニアOG、ウガンダOG、ガーナOBがアフリカの魅力について語り、「なんとかしなきゃ！プロジェクト」の著名人メンバーである宮崎県のゆるキャラ「みやざき犬」が民族衣装を着て登場！タンザニアのレアさんとアフリカダンスを行うなど、元気なアフリカをPRしました。

多くの来場者のあった、「Globalism?! シローとつづくのトーク&ライブ」では、「なんとかしなきゃ！プロジェクト」の著名人メンバーである、木



高校生大学生ボランティア

村つづくさんと濱田詩朗（はまだしろう）さんが、世界をテーマにしたトークイベント&ミニライブを開催しました。

来場者のなかには、朝からのステージイベントを最後までご覧になっている方や、在住外国人のみなさん、ご家族連れなど、さまざまな年代層の方々がいらっしやっていました。

「大変勉強になるイベントだった」「楽しい内容でもっと多くの人に知って欲しい」「こんな団体が宮崎にあったとは知らなかった」など多くのご意見を

頂きました。

来場者数は2095名。本当に多くの方々に来場していただきました。

このようなイベントを実施することで、より多くの宮崎県民や在住外国人の皆様にご周知できればと考えています。そして、グローバル人材育成のため、世界を視野に入れる機会を提供することにより、学生さんに国際社会に対するモチベーションを高めてもらう機会になればと思っています。ありがとうございました。



会場風景



専門家連絡会のブース



トークショー

## 編集後記

宮崎県JICA派遣専門家連絡会会報「JICAエキスパートみやざき15号」をお届けいたします。本会報を通して会員相互の連絡を密にして、本会の発展につながりますように皆様方からのご提案やご意見をお待ちしております。

ご連絡は、下記の世話人へ頂ければ幸甚です。

会長：永田雅輝、幹事：位田晴久、山本正悟、大野和郎、佐伯雄一、山口良二

事務局：〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学農学部内